

第52回民放労連全国女性のつどい in 東京

女性からギョーカイを変えよう

～仕事も幸せもあきらめない～



1日目 全体会

「第五二回民放労連全国女性のつどい」が5月30日(土)、31日(日)に東京・品川で開催され、全国から一六七名が参加。



テレビ東京労組の大江麻理子さんの司会で始まった全体会では、冒頭、境田恭子実行委員長が挨拶し、『2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%にする』という政府目標『2030』に触れ、『五年後の働き方はどうなっているのか、これを機に考えて欲しい』という提案がありました。

続いて民放労連本部の赤塚オホコ委員長挨拶で、政府が「高度プロフェ

シヨナル制度」を導入しようとしていることについて「残業代が出ないなら残業もゼロにするべき。これからワークシェアリングが大切」と、また「今こそ自分を、ひいては日本を見つめ直すゆとりを持つことが必要」との指摘を頂きました。

田畑美路子 (テレビ東京労組)

基調講演 日本が働き方を変えなければいけない理由と変える方法

誰もが活力をもって社会で活躍するために必要不可欠な「ワーク・ライフ・バランス」について株式会社ワーク・ライフ・バランス代表取締役社長の小室淑恵さんのお話をうかがいました。現代の日本は、労働人口



分科会④ お父さんがやるべきことイクメン子育て術

よりもそこに支えられる人たちの方が多い人口オーナス期。介護などの時間的制約は女性特有のものではなく、男女ともに「限られた時間で最大の成果を出すスキル」が求められるようになりつつあります。つまり、これまで肩身が狭く感じていた働くお母さんも生産性で勝負できる土壌を作ることにつながります。小室さんの会社がこれまで労働時間の削減を指導した数百社にも及ぶ企業では、それを実現したことにより、仕

事外の時間を資格取得や研鑽を積む時間に充てる従業員が増え、仕事の効率や質が上がると、業績が上がるケースがほとんどだそうです。小室さんはこれを「ワークとライフの相乗効果」と締めくくりました。ワークもライフも一生懸命だからこそ、次への意欲につながる」という言葉が印象的でした。放送業界にもこの風を吹かせたい、そう強く感じました。

田中愛佳 (テレビ大分労組)

分科会① アベノミクスを斬る!



「経済学は難しく分らない」と言われているが、経済活動は人間が人間であることの証。分らなくてつまらないわけではない! という言葉から始まった同志社大学大学院ビジネス研究科の浜矩子教授。「経済学の根源は人間を幸せにする活動」という基本思想からいうと、「ブラック企業」という言葉はおかしい」とのこと。「企業という言

話は本題の「アベノミクスを斬る」というテーマに。日本国を強くする目的のアベノミクス、一体、何に対して強きたいのか、先生独特の言い回しで解説していただきました。こんな世の中だからこそ、我々が持つべきものは①他人の声を聞く「耳」②涙する「目」③さしのべる「手」。「人権の礎、平和と表裏一体でなければ経済発展はない」という先生の言葉は、日々を見直す良い機会でした。



曾我有紀子 (日本テレビ労組)

分科会③ キレイなだけの美女はNG!



著述家の湯山玲子さんに、ご自身の職歴、多くの文化に触れて得た女性論を伺いました。第一声は「みんな、美女嫌いでしょ?」。彼女たちは自己承認欲が強く、SNSの「いいね!」獲得に必死で、他人は自分を褒め

川村庄子 (テレビ東京労組)

元プロサッカー選手の水内猛さんを招き、お話を聞かせていただきました。この分科会は何もどこのように子育てをすればよいかかわらないお父さんにアドバイスをするという趣旨で用意された分科会でしたが、水内さんの奥様が、TBSテレビの小倉弘子アナウンサーということもあり、放送業界で働く女性が子育てをしながら仕事とどう向き合っているのよう

古寺智和 (テレビ朝日労組)

1日目 交流会



「TKPカーテンシティ品川」で行われた交流会は、テレビ朝日の本間智恵アナウンサーの司会でスタート。関東東連の渡辺豊執行委員長の音頭による乾杯の後、各分科会の内容や感想などを報告。講師の湯山玲子さんにも飛び入りでコメントをいただきました。そして中盤は「絆とハートタッチ」と題したリレー

山田明子 (東北放送労組)

分科会① あつまれ現場 女子&男子

分科会② あつまれオフィス 女子&男子

「仕事と子育ての両立」「長時間労働をなくすため」にはどうすればいいか「非正規問題」など、七つのテーマの中から一つを選択し、グループトークを行いました。多くの女性が共通して抱えている悩みもあれば、職種や局の規模、あるいは世代特有の悩みも。働く女子の悩みはつきません。「結婚しても働き続けること」をぶっちゃけトークでこの四つのテーマが取り上げられ、みんなが抱えている問題が共通であることを再認識しました。私のグループのテーマはその立場の方が二名いたこととあり「非正規問題」。各々の体験や日々感じていることをぶっちゃけトークでできたことで、最初は積極的でなかったお二人もどんどん意見が出て、「今回参加して本当に良かった」とおっしゃられ、自分のすべき事を見つけたようでした。どのテーマも簡単に答えが出せなかったものの、各テーブル毎に少しでも解決への糸口が見え、話がでける仲間ができたことで、今後の交流が楽しみになるとなりまして。 (近畿地区労組FM802分会 平石波津美)

(3面に続く)

## 分科会③

上映会  
「それでも  
希望の夕ネ  
をまく」

テレビユー福島制作部長  
の深谷茂美さんが制作され

た、ドキュメンタリー番組  
『それでも希望の夕ネをま  
く 福島農家2年めの試  
練』を視聴させていただき  
ました。

深谷さんが長年取材され  
てきた菅野さん一家を突然  
襲った東北大地震と原発事  
故、そして農地の放射能汚  
染。二十年以上かけて作っ  
た有機栽培のための大切な  
土を一切無駄にしたくない

という思いから、表土を削  
りとらずに農地を復活させ  
るための研究、水田へ入る  
水路の水を浄化させるため  
セオライトによるろ過な  
ど、農業への強い情熱が伝  
わってきました。

最後にQ&A Bさんのご協  
力で、辺野古基地建設反対  
市民の活動とそれを阻止し  
ようとする国側について取  
材した短いVTRが上映さ  
れました。来年の沖繩で我  
々が何を見聞きすべきか、  
福島も沖繩も、現地で丁寧  
に取材されていてもなかな  
か全国まで発信されていな  
いことを参加した全員が改  
めて感じ、考えさせられる

内容でした。

(日本テレビ労組

足立美香)

2日

全体会

二日目の全体会では、直  
前に行われた分科会の熱気  
をそのままに、充実した二  
日間のつどいをまとめる会  
になりました。

次回開催地の沖繩地連の  
金城わか菜さんより、来年  
のつどいでは沖繩ならではの  
内容でみなさんをお迎え  
します。沖繩にめんそ  
ーれ！と元気な呼びかけが  
ありました。



つどいの最後に発表され  
た大会スピーチでは、女性  
はライフステージの変化で  
時間制約がある働き方にな

るケースが多いが、今後は  
介護、メンタルなどの理由  
で、時間制約がある働き方  
をする人は男女問わず増え  
ると言われており、働き方  
を変えることは、私たちの  
重大なテーマであることを  
確認するとともに、今年の  
つどいのスローガンにもあ  
るように、女性からギョー  
カイを変え、仕事も幸せも  
あきらめないことを誓いま  
した。

実行委員から

全国から一六七人ものご  
参加、誠にありがとうございました。

途中、地震が発生、一時  
ヒヤッとなりましたが、無事  
に二日間の日程を終えるこ  
とができました。各所から  
のお力添えの賜物だと、実  
行委員一同心より御礼申し  
上げます。

ビックネームぞろいの講  
師陣からも、ワークショップ  
等で積極的に意見を交わ  
す参加者の皆様からも、働  
く女性のパワーを肌で感じ  
るつどいとなりました。

一年後の沖繩では、さら  
にパワーアップした女性の  
力を集結させましょう！

(日本テレビ労組

境田恭子)